

2023年度 専門高校(学科)・総合学科生徒 対象選抜入学試験

2023年度専門高校(学科)・総合学科生徒対象選抜入学試験については、学部により試験日に筆記試験を実施、または事前に課題提出を課しました。各学部の選考方法は以下のとおりです。

学部	選考方法
経済学部	筆記試験(小論文)
文学部哲学科	課題提出(小論文)
文学部史学科	課題提出(小論文)
文学部社会学科	課題提出(小論文)
文学部文学科 日本語日本文学専攻コース	課題提出(小論文)
文学部文学科 英語英米文学専攻コース	課題提出(小論文)
データサイエンス学部	課題提出(小論文)
地球環境科学部環境システム学科	筆記試験(小論文)
地球環境科学部地理学科	課題提出(小論文)

出題内容は、次ページよりご確認ください。

2023年度 専門高校（学科）・総合学科生徒対象選抜入学試験問題

（試験時間60分）

経済学部

設問 次の文章を読み、今後日本はどのようなことに取り組むべきか、あなたの考えを800字以内で述べてください。

出生率反転、波乗りぬ日本 先進国の8割上昇

先進国の8割で2021年の出生率が前年に比べて上昇した。新型コロナウイルス禍で出産を取り巻く状況がまだ厳しい中で反転した。ただ国の間の差も鮮明に現れた。男女が平等に子育てをする環境を整えてきた北欧などで回復の兆しが見えた一方、後れを取る日本や韓国は流れを変えられていない。

経済協力開発機構（OECD）に加盟する高所得国のうち、直近のデータが取得可能な23カ国の21年の合計特殊出生率を調べると、19カ国が20年を上回った。過去10年間に低下傾向にあった多くの国が足元で反転した格好だ。

21年の出生率に反映されるのは20年春から21年初にかけての子づくりの結果だ。まだワクチンが本格普及する前で健康不安も大きく、雇用や収入が不安定だった時期。スウェーデンのウプサラ大学の奥山陽子助教授は「出産を控える条件がそろい、21年の出産は減ると予想していた。それでも北欧などでは産むと決めた人が増えた」と話す。

理由を探るカギの一つが男女平等だ。20年から21年の国別の出生率の差とジェンダー格差を示す指標を比べると相関関係があった。世界経済フォーラム（WEF）の22年版ジェンダーギャップ指数^(注)で首位だったアイスランドの21年の出生率は1.82。20年から0.1改善し、今回調べた23カ国で2番目に伸びた。

19年まで出生率の落ち込みが大きかった同2位のフィンランドは2年連続で上昇し、21年は0.09伸びて1.46まで回復した。奥山氏は「長い時間をかけてジェンダー格差をなくしてきた北欧では家庭内で家事・育児にあてる時間の男女差が少なく、女性に負担が偏りにくい」と指摘。コロナ禍で在宅勤務が広がるなか「男性の子育ての力量が確認された」という。

日本は状況が異なる。「第2子を期待したが諦めた」。埼玉県に住む30代の共働き世帯の女性は肩を落とす。コロナ禍で夫婦とも在宅勤務が増え、夫が家事・育児に加わり2人目の子を持つ余裕ができると考えた。結果は「頼れないことがわかった」。自宅で何もしない夫のケアまで上乗せされ、逆にコロナ前より負担が増えたという。

先進国の中でもジェンダー格差が大きい日本と韓国の出生率はいずれも0.03下がった。韓国は出生率0.81と深刻で、日本も1.30と人口が加速的に減る瀬戸際にある。家庭内の家事・育児時間の男女差が4～5倍ある両国は女性の出産意欲がコロナ禍で一段と弱まった恐れすらある。

ジェンダー格差とともに少子化に影を落とすのは収入だ。東京大学は男性を年収別のグループで分けて40代時点における平均的な子供の数の推移を調べた。2000年以前は差が小さかったのに対し、直近は年収が低いグループの子供の数が高いグループの半分以下になった。

十分な収入を確保できない状況が続けば育児は難しい。共働きで世帯収入を増やすことは出生率を底上げする。

先進国で女性の社会進出は少子化の一因とされ、1980年代には女性の就業率が上がるほど出生率は下がる傾向にあった。最近も北欧諸国などで経済的に自立した女性ほど子供を持つ傾向があり、直近5年では女性が労働参加する国ほど出生率も高い。日本は女性の就業率が7割と比較的高いにもかかわらず出産につながりにくい。家事・育児分担の偏りや非正規雇用の割合の高さといった多岐にわたる原因が考えられる。保育の充実といった支援策に加え、男女の格差は正から賃金上昇の後押しまであらゆる政策を打ち出していく覚悟が必要になる。

（注）ジェンダーギャップ指数

ジェンダーギャップとは、社会や家庭などで男女の違いから生じている格差を示す。各国の格差の度合いを比べる指標とし

て世界経済フォーラム（WEF）の「ジェンダーギャップ指数」が知られる。2022年版で日本の指数は146カ国中116位と主要7カ国（G7）で最低だった。日本はこれまでも下から2～3割の順位が定位置となっており、男女平等の実現で出遅れている。

指数は経済、政治、教育、健康の4分野に関する統計データから算出する。日本は特に政治が139位、経済が121位と遅れが目立つ。識字率や初等教育の就学などでは男女同等だが、国会議員や管理職の女性比率の低さなどが足を引っ張る。意思決定の場に女性が少ないと格差を生む社会構造が温存されやすい。

多岐にわたる男女格差のなかで特に焦点となるテーマの一つが賃金だ。ジェンダーギャップ指数が1位のアイスランドは18年、企業が男女の同一労働同一賃金を証明するよう世界で初めて義務付けた。期限までに証明できない企業には罰金を科す。日本も今年7月、女性活躍推進法の省令改正で大企業などに男女の賃金格差の情報開示を義務付けた。実際に賃金の男女差がどこまで縮小されるかが注目される。

（北爪匡、ダイバーシティエディター 天野由輝子、グラフィックス 天野由衣、映像 碓井寛明）

日本経済新聞 2022年7月31日

作問の都合上、一部変更したところがある。

課題（小論文）

2023年度 専門高校（学科）・総合学科生徒対象選抜入学試験 課題（小論文）

文学部

〈出題内容〉

【哲学科】

以下の2つの設問に答えなさい。（全体で600字以上800字以内）

（設問1）これまでに読んだことのある本を1冊挙げ、その内容について考えたことを述べなさい。

（設問2）設問1で述べたことを踏まえて、入学後どのような勉強を行いたいのか、明確に論じなさい。

【史学科】

日本を含む世界の歴史上であなたが重要だと思う人物を取り上げ、その人物がのちの社会に与えた影響について、600字以上800字以内で述べなさい。

【社会学科】

社会学は経済学や経営学や法学などを総合的に学べる学問ではありません。あなたが社会学をどのような学問と考えているか。あなたが学びたいことを立正大学文学部社会学科でどのように学ぶことができるかの2点について、社会学科専任スタッフの研究領域と関わらせて800字以内で文章化しなさい。

* 図書館司書課程と語学教育課程の教員は除く

【文学科日本語日本文学専攻コース】

あなたのこれまでの学びと入学後に日本語日本文学専攻コースで学びたいことにはどのような関連があるか、800字以内で述べなさい。

【文学科英語英米文学専攻コース】

専門高校（学科）・総合学科に学んだ経験を踏まえ、英語英米文学専攻コースで学びたいことと将来の希望を、800字以内で述べなさい。

課題（小論文）

2023年度 専門高校（学科）・総合学科生徒対象選抜入学試験 課題（小論文）

データサイエンス学部

〈出題内容〉

あなたが専門高校（学科）あるいは総合学科において専門的に学んだ分野の発展に、データサイエンスの知識や技術はどのように利活用することができるだろうか。あなたの考えを述べなさい。

800字程度。

小論文

2023年度 専門高校（学科）・総合学科生徒対象選抜入学試験問題

（試験時間60分）

地球環境科学部

◎環境システム学科

自然環境破壊や自然環境汚染の問題解決に向けて、私たちが日常生活の中でできることについて、あなたの考えを具体的に述べなさい（800字以内）。

課題（小論文）

2023年度 専門高校（学科）・総合学科生徒対象選抜入学試験 課題（小論文）

地球環境科学部

〈出題内容〉

【地理学科】

あなたが学んでいる専門高校（学科）・総合学科における学習内容は、地域調査の実施にあたってどのように生かせるか、具体的に地域調査のテーマと調査する内容を挙げて説明しなさい。（800字以内）